



生誕二百年のフランクと没後二十年のメシアンに焦点を当てる吉田文Ⅱ写真Ⅱのパイプオルガンコンサート「み国の来たらんことを」が、三十日午後六時半から名古屋・栄の愛知県芸術劇場コンサート

音楽に祈りを込めて

吉田文パイプオルガンコンサート 30日

ホールで開かれる。

二人はともに、教会オルガニスト・作曲家としてフランクの「三つの作品」はそれぞれ単独で演奏されることも多いが、イエス・キリストの「受難」「聖土曜日」の墓の安息「復活」の三日間を表現。メシアンの「主の降誕」は、イエスが神から世界に遣わされ、人として生まれる神

秘を九曲に込めた。メシアン初期の作品で、比較的聴きやすいという。

吉田は「いまだに戦争がある世界情勢の中、音楽に込められた祈りを解放していくことが私たちにできること。宗教を超え、小さな祈りの水紋が広がっていけば」と願う。

3000円。二宮音楽事務所Ⅱ電052(505)0151 (築山栄太郎)